

# 技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号		技術部門	建設	部門
問題番号	Ⅲ-1	選択科目	都市及び地方計画	科目
答案使用枚数	1 枚目 3 枚中	専門とする事項	防災まちづくり	

○受験番号、答案使用枚数、選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。

1.	課題																		
1.1	まちづくりの観点：職住近接ニーズに対応したまちづくりの推進																		
	テレワークの浸透により、住む場と働く場が近づき、職住近接ニーズが高まっている。大都市はオフィス・住環境・文化・エンタメ機能を、郊外や地方都市は住む・働く・憩いの「地元生活圏の形成」を推進し、役割分担して、相互に魅力を高めることが必要である。																		
1.2	交通の観点：まちづくりと一体の総合的交 通戦略																		
	コロナ危機により公共交通利用者が減少し、近距離移動は、自転車に転換していると考えられる。自転車やシェアリングモビリティ等多様な移動手段の確保とその環境整備が求められる。また、混雑状況のリアルタイム発信や、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成等、総合的な交通戦略が必要である。																		
1.3	防災の観点：感染症対策と両立する避難の推進																		
	コロナ危機下での災害発生は「複合災害」となり、避難所での感染拡大などの二次リスクに備える必要がある。多様な避難環境の整備や非常時のバッファ機能の確保、リアルタイムデータの活用等、感染への対策を避難所運営と両立することが求められる。																		
2.	最も重要と考える課題と対応策																		
	公衆の安全・健康・福利を最優先と考える視点から、「1.3 防災の観点：感染症対策と両立する避難の推進」が最も重要な課題と考える。その対応策を次に示す。																		

●裏面は使用しないで下さい。 ●裏面に記載された解答は無効とします。

24 字×25 字

# 技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号		技術部門	建設	部門
問題番号	Ⅲ-1	選択科目	都市及び地方計画	科目
答案使用枚数	2 枚目 3 枚中	専門とする事項	防災まちづくり	

○受験番号、答案使用枚数、選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。

2.	1	<u>多様な避難環境の確保</u>									
		災害時の避難所の過密を避けるため、多様な避難環境の確保が求められる。公的避難所以外の公共施設やゆとり空間、民間施設の活用等が挙げられる。									
		また、地域住民へマイ・タイムライン作成を普及促進し、親せき・知人宅や宿泊施設などへの早期の計画的な避難を促し、避難の実効性を確保する必要がある。									
2.	2	<u>緑とオープンスペースの柔軟な活用</u>									
		街路空間や公園・緑地、水辺空間、都市農地、民間空地等の緑とオープンスペースを活用することで、非常時のバッファ機能を確保することができる。									
		平時にも、テレワーカーの作業場所やフィットネス等のスペースとして、都市の冗長性を高められる。									
2.	3	<u>リアルタイムデータの活用</u>									
		人流・滞在データを活用し、ミクロな空間の動きを把握することによって、過密を避けるように人の動きを誘導することが必要である。また、リアルタイムデータの活用により、危険地域への人口滞留などのリスクを把握し、円滑な避難に役立てることができる。									
3.		<u>波及効果</u>									
		2で挙げた対応策を実行することで、避難所での安全・安心を向上させることができ、都市の魅力を高めて、国際競争力の強化に寄与できると考える。									
4.		<u>懸念事項とその対策</u>									
4.	1	<u>地域住民の理解促進</u>									

●裏面は使用しないで下さい。 ●裏面に記載された解答は無効とします。

24 字×25 字

## 技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号		技術部門	建設	部門
問題番号	Ⅲ-1	選択科目	都市及び地方計画	科目
答案使用枚数	3 枚目 3 枚中	専門とする事項 防災まちづくり		

○受験番号、答案使用枚数、選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。

	懸念事項として、多様な避難環境を確保した場合も、	関係する地域住民等の理解の不足により、十分な活用	が行われないことが考えられる。	対策として、行政広報誌やホームページ、ワークシ	ョップ、SNSなど、多様な情報発信手段を複層的に	活用することが考えられる。	4.2 緑とオープンスペースの維持管理促進	懸念事項として、整備した緑とオープンスペースを	維持管理する担い手の不在により、非常時に十分な活	用が図れないことが考えられる。	対策として、まちづくり団体やNPO等を都市再生	推進法人やみどり法人として指定すること、担い手	を確保できると考える。また、まちなかウオーカブル	区域内の都市公園では、都市公園リノベーション協定	制度を活用することも有効と考えられる。	4.3 非常時の機能確保のための事前準備	懸念事項として、リアルタイムデータを活用したシ	ステムの不具合や誤作動、必要電源の途絶等により、	企図した機能が確保できないことが考えられる。	対策として、平時から同じデータを活用したシステ	ムを運用し、非常時の対応をその延長に位置付けるこ	とが有効であると考ええる。また、BCPを作成すると	共に、災害情報の更新等に応じて継続的な見直しを行	い、非常用発電設備の設置など、具体的に対策してお	くことが有効と考えられる。
--	--------------------------	--------------------------	-----------------	-------------------------	--------------------------	---------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	-----------------	-------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	---------------------	----------------------	-------------------------	--------------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------	---------------

●裏面は使用しないで下さい。 ●裏面に記載された解答は無効とします。

24 字×25 字